



## 務

土木學會誌 第十六卷第五號 昭和五年五月

- 昭和五年四月十四日第四回編輯委員會を開く、黒河内編輯委員長、岡田、菊池、鈴木、田中(寅)、田中(豊) 藤井の各委員、菊池囑託出席、會誌編輯上の協議を爲せり。
  - 同月三十日役員會を開く、中川會長、八田、眞島の兩副會長、木津、眞田、谷口、平井、前川の各常議員、丹治、牧野兩主事出席、中川會長議長席に着き下記事項を決議せり。
    - △五月下旬講演會を開催することとし、其の講演を會員川口利雄君に依頼すること。
    - △視察旅行の行程其の他に就ては原案を承認すること。
    - △日本工學會評議員として本會より古市前會長を推薦すること。
- 其の他會務に関する事項。

## 調査會記事

- 昭和五年四月十四日より同十九日に互り混凝土調査會幹事會を開く、大河戸委員長、田中(寅)、田中(豊)、中山、平山、藤井、吉田の各幹事、大串、松本、山口、川口の各委員、立花北村兩囑託出席下記事項を審議せり。
  - △混凝土及鐵筋混凝土示方書原案を鐵筋混凝土のみに關する標準示方書となすの件。
  - △示方書原案施行編に對し各委員よりの提出意見採擇に關する件。
  - △小委員會に附託起草せる示方書原案設計篇により幹事會原案作成に關するの件。
  - △示方書附録(試験の部)に對する幹事會原案作製に關する件。
- 昭和五年四月十六日土木學會用語調査會委員赤木正雄君を同幹事に推薦す。
- 昭和五年四月廿三日第二十回用語調査會幹事會を開く、中山委員長、中川幹事長、井上、砂治、内村、櫻部、榎木、菊池、鮫島、鈴木、田中、富永、中桐、福田、藤井の各幹事、中川、豊田兩囑託出席、下記部門の定義並解釋に關し討議せり。
  1. 鐵道之部
  2. 河川之部
- 同年四月廿日用語調査會幹事分科會原案 港灣之部(其三)、及水力電氣之部(其一)を印刷し各幹事及委員に配布せり。
- 准員加藤次郎君は 立花 と改姓せられたり。
- 下記諸氏は退會せられたり。
  - 准員 生野俊雄君 守屋應次郎君 森本兵次郎君 越村外代一君
  - 柴田明治君 服部治一君 岡 恒介君

○昭和五年四月一日以降同月末日迄に入會の手續を了し名簿に登録したる者下記十二名なり。(○印は轉格を示す)

				會		員			
○越	智	望君	森	幸	治君				
			准		員				
和	久	英	雄君	山	口	武	夫君	松	勢
足	立	益	三君	吾	田	秀	雄君	村	瀬
牧	野	健	太郎君	○内	山	祥	一君		
				學	生	員			
松	久	勉君	野	田	利	朗君			

○昭和五年四月十六日以降同年五月十五日迄に於て寄贈誌に交換を受けたる雜誌其の他下記の通り

寄贈の分

The Excavating Eng. No. 4	1 冊	三井物産株式會社機械部
工政第 125 號	1 冊	工 政 會
工學報告第 2 號	1 冊	東北帝國大學附屬圖書館
工事畫報第 5 號	1 冊	工 事 畫 報 社
工學五月號	1 冊	東 京 工 學 社
工業五月號	1 冊	大 阪 工 業 會
工學部記要第 9 號	1 冊	東京帝國大學工學部
工業之大日本	1 冊	工 業 之 日 本 社
工業要録第 4 號	1 冊	工 業 資 料 調 查 會
國立公園第 4 號	1 冊	國 立 公 園 協 會
シビル五月號	1 冊	シ ビ ル 社
水曜會誌第 3 號	1 冊	京都帝國大學工學部採鑛冶金學 教室
セメント界策報第 233 號及第 234 號	2 冊	日本ポルトランドセメント同業 會
地震研究所報告第 8 號	1 冊	地 震 研 究 所
鐵道技術第 4 卷第 4 號	1 冊	鐵 道 技 術 社
電氣製鋼第 6 卷第 4 號	1 冊	電 氣 製 鋼 研 究 會
電氣ヴキクトル第 2 卷第 4 號	1 冊	電 力 需 給 促 進 會
土木建築材料商報 5 月號	1 冊	土 木 建 築 商 報 社
東京工業會誌	1 冊	東 京 工 業 會

度量衡第218號	1冊	日 本 度 量 衡 協 會
内外工業時報4月號	1冊	最 新 工 學 普 及 會
名古屋工業會々報第85號	1冊	名 古 屋 工 業 會
内外工業時報五月號	1冊	最 新 工 學 普 及 會
日立評論第4號	1冊	日 立 評 論 社
ワット第4號	1冊	ワ ッ ト 社
交換の分		
衛生工業協會誌第4號	1冊	衛 生 工 業 協 會
機械學會誌第156號	1冊	機 械 學 會
建築雜誌第582號	1冊	建 築 學 會
工業化學雜誌同歐文綴	2冊	工 業 化 學 會
港灣第5號	1冊	港 灣 協 會
造船協會雜誌第97號	1冊	造 船 協 會
帝國鐵道協會々報第4號	1冊	帝 國 鐵 道 協 會
鐵と鋼第16年3號	1冊	日 本 鐵 鋼 協 會
電氣學會雜誌第501號	1冊	電 氣 學 會
日本建築士第4號	1冊	日 本 建 築 士 會
日本鑛業會誌第504號	1冊	日 本 鑛 業 會

## 關西支部春季見學會記事

(昭和五年五月七日 土木學會關西支部)

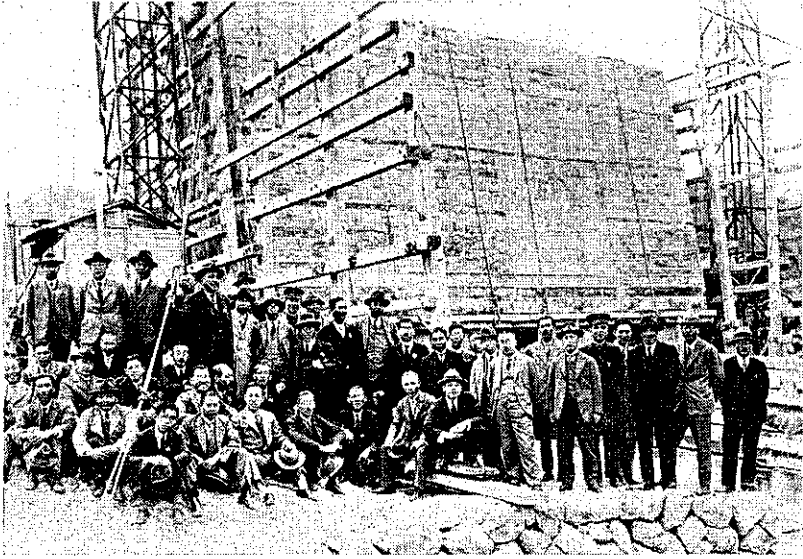
當會關西支部本年春季見學會として若狹小濱町北川改修工事と敦賀港修築工事を見學することになつた。之に参加した會員は左記の通りであつた。

### 見學會員一行(順序不同)

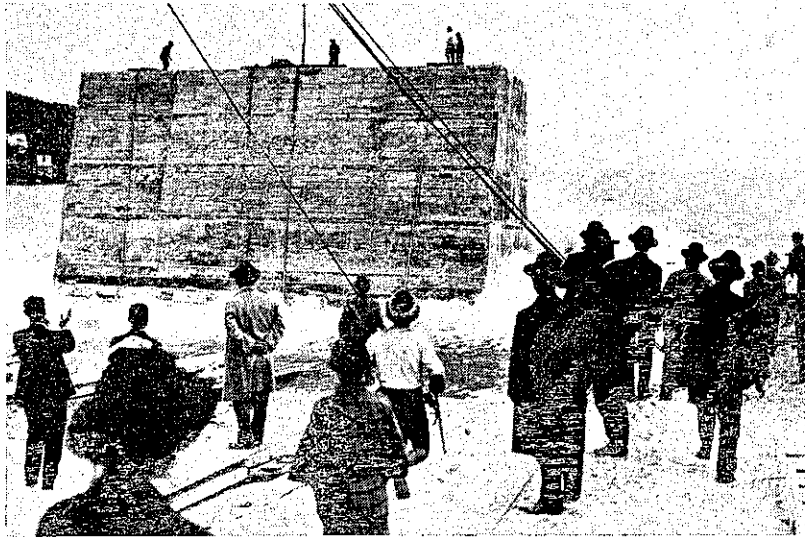
後藤佐彦君	木村芳人君	近藤博夫君	荒木文四郎君
朝枝敏之君	牛島航君	荻原基次君	小早川貞三君
川久保鐵三君	金丸正春君	坂本助太郎君	境田賢吉君
島重治君	重森幹之助君	柴田辰之進君	鈴木義一君
田淵壽郎君	土井源三良君	中村功君	直木倫太郎君
平瀬三雄君	松島寛三郎君	河原次男君	山本卯太郎君
興田喜知藏君	和田重辰君	大森義文君	岡密君
吉岡重慶君			

斯くて一行は4月19日午後1時25分京都發貸切列車にて小濱町に直行し午後3時30分小濱驛に下車、自動車に分乗して北川改修工事現場を巡視し千田主任技師の説明を聞き、夫より福井縣立小濱水産學校を見學し戸井田校長の説明を聞き、更に町内を見物して宿舍青濱館に着いたのは午後7時頃であつた。同夜宿舍にて一行の懇親會を催して勞を慰し、翌20日は午前8時宿舍を出て海路敦賀港へ行くこととなつた。途中小濱港頭の絶勝として有名なる蘇洞門の奇巖怪石を見たが平素土木技術者として土や石に親める人々も其の偉大なる自然の造化に心膽を寒からしめたのであつた。

敦賀港に着いたのは午後2時頃であつた。夫より敦賀港修築工區事務所の好意により同港修築の現状及ケーソン進水式を見て敦賀町公會堂に休憩の上、午後4時41分敦賀驛發貸切列車にて歸途についた。尙一行に對し小濱町及敦賀町當局より多大の好意を寄せられ且つ記念品の贈呈を受けたのであつた。



昭和5年4月19, 20日土木學會關西支部春季見學一行,  
敦賀港ケーソン前に於ける記念撮影



同上 ケーソン進水式光景

## 雜誌閱覽に就ての會告

下記の雜誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御随意に御閱覽相成度候。

### 閱 覽 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午後一時至同四時、其他自午後四時至同八時。

但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

### 備 付 雜 誌

Engineering	工	政
Engineering News-Record	港	灣
Le Génie Civil	國	際
Railway Gazette	造	船
衛生工業協會誌	帝	國
機械學會誌	鐵	道
業務研究資料(鐵道大臣官房研究所)	電	氣
建設	電	氣
建築雜誌	土	木
工學部紀要(東大,京大,九大)	日	立
工學報告(東北帝大)	名	古
工業化學雜誌	滿	洲
工事畫報	其	他
	寄	贈
	雜	誌

### 廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 電話京橋 872 番、振替東京 3069 番 東京第一通信社取扱)

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	}	裏表紙三面對向	一回一頁 60 圓
		及廣告初頁	一回一頁 150 圓
		裏表紙三面	一回一頁 75 圓
		色アート	

- 指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引、一箇年分一割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# 緊 急 會 告

土木學會座談會開催のお知らせ

期日 来る七月十八日(金曜日)午後五時より

場所 東京市麴町區丸ノ内帝國鐵道協會

話題 東京市道路及軌道の保修問題に就て

追て當日の夕食は御隨意なるも便宜簡單なるランチ(50 錢程度)

を認め得る様準備致置候

土 木 學 會

## 寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
- (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 150 枚（本會誌 50 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
- (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
- (4) 歐字は特に明瞭に認むること。  
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ  
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
- (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及内容梗概を添附されたし。
- (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
  - (イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。
  - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
  - (ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の野は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には強め墨線にて之を描き置かれたし。
  - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
  - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。  
算式其の他の記し方大體標準。
- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 $a/b$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避けること。 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$  と書き  $\frac{x}{3}$  を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$  と書き  $\frac{a+b}{2}$  を避けること。 $\frac{a}{b+cd}$  と書き  $\frac{a}{b+c\frac{1}{d}}$  を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避くること。  
83.4 尺（八丈三尺四寸），7 吋（七吋），35 錢（三十五錢），13.56 圓（十三圓五十六錢），1~4 時間（一乃至四時間），88 326 噸（八萬八千三百二十六噸），1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。



## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合には一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

### 残部内譯

第五卷一號二號	一部	金拾八圓	壹圓	圓
第六卷六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第七卷二號三號四號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第八卷一號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第九卷一號二號三號五號六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十卷二號三號四號五號六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十一卷二號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十二卷二號三號五號六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十三卷二號三號六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同	金拾八圓	壹圓	圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金拾八圓	壹圓	圓
第十六卷一號二號三號四號	同	金拾八圓	壹圓	圓
東京市内外交通に関する調査書	同	金拾八圓	壹圓	圓
震害調査報告書(一、二、三)	同	金拾八圓	壹圓	圓

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なるときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等にて御不在となるも會費支拂には差支なき様御配慮相成たし

### 會費納付に付注意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支拂願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざるときは爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月徴收	自五月至八月 第二期分六月徴收	自九月至十二月 第三期分十月徴收
會員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學生員	金七圓五拾錢	金貳圓五十錢	金貳圓五十錢	金貳圓五十錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

### 會費未納に付注意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會誌未着の場合の注意

會誌は毎年毎月十五日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配付すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては殘部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし